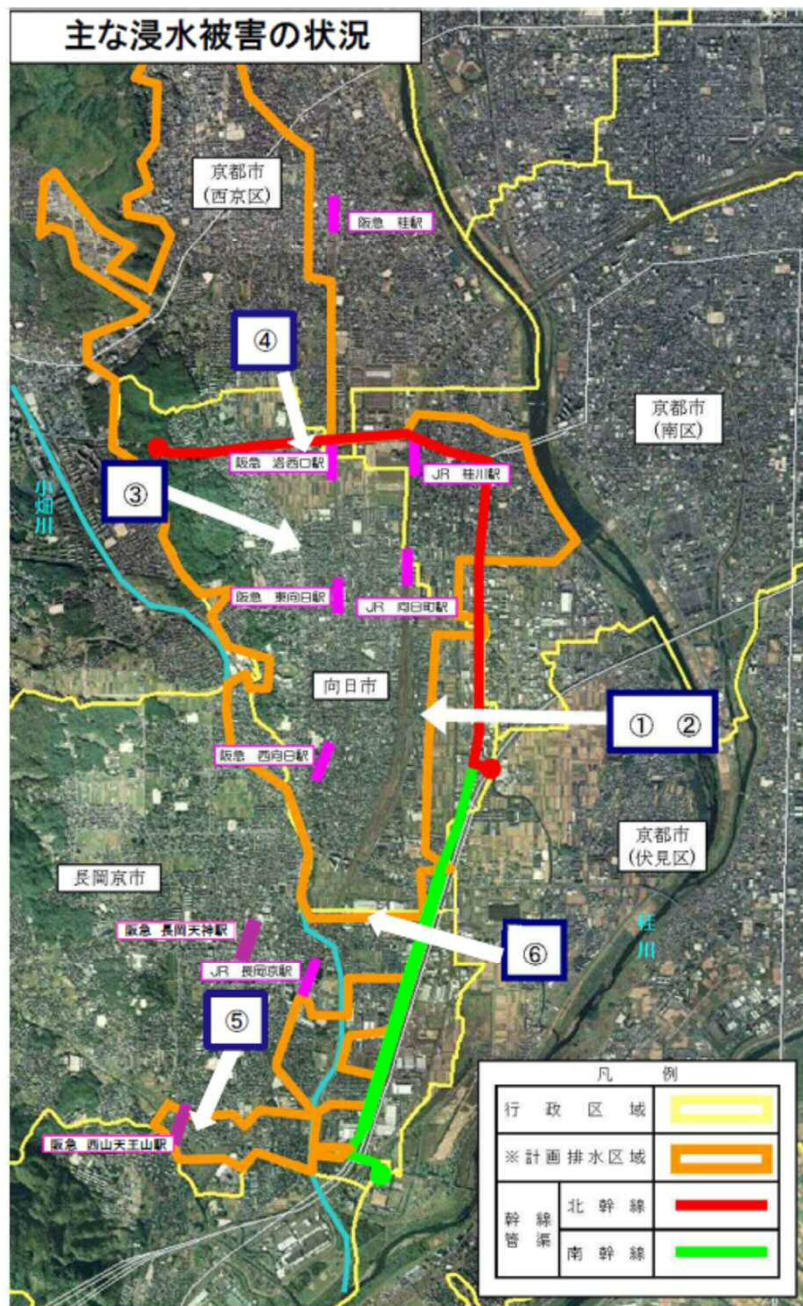


# 【いろは呑龍トンネル整備前の浸水状況】



京都新聞社提供

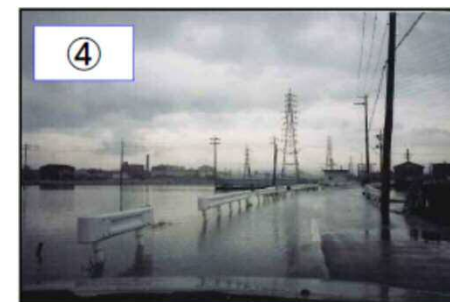
平成20年7月 前田地下道 (向日市)



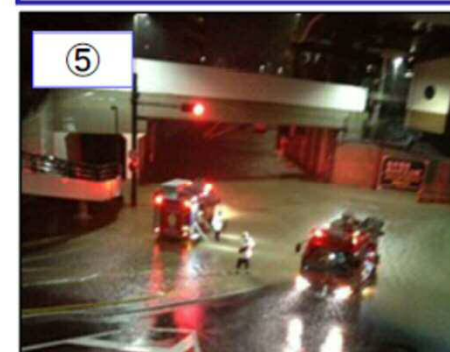
平成9年8月 前田地下道 (向日市)



平成11年6月 阪急洛西口駅西地区 (向日市)



平成11年6月 阪急洛西口駅西側 (向日市)



平成25年9月 西山天王山駅前 (長岡京市)



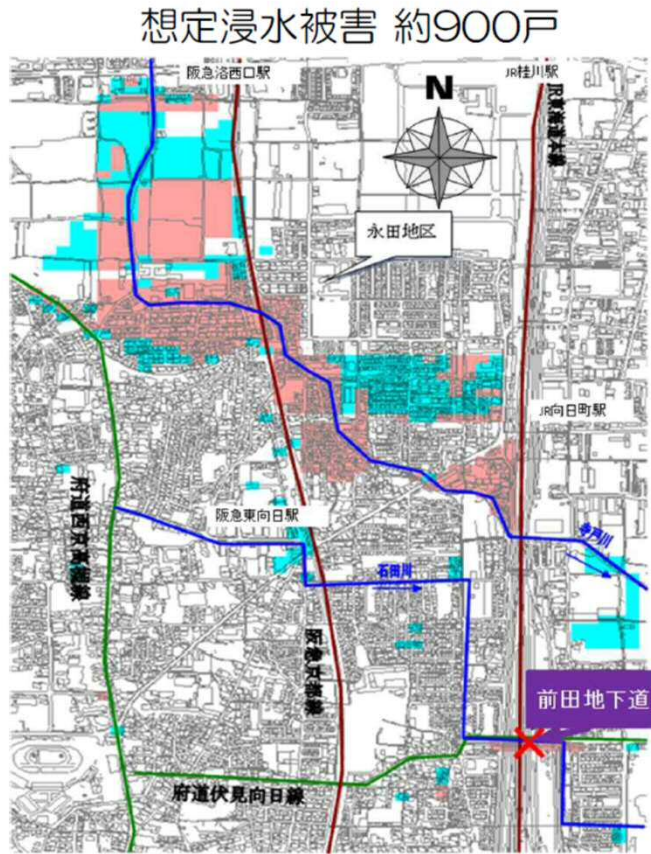
平成10年8月 府道伏見柳谷高槻線 (長岡京市)



# 【いろは呑龍トンネルの整備効果①(平成25年台風18号に対して)】

- 北幹線の整備により約800戸が被害を免れた
  - 時間最大雨量41mmの雨により北幹線の貯留量が100%となった
- ⇒北幹線整備後、この地域で発生した最大の出水において、**大きな効果を発揮**

北幹線整備前



北幹線整備後(H23~)



呑龍太郎

北幹線 貯留率100%

総雨量 275mm  
時間最大雨量 41mm

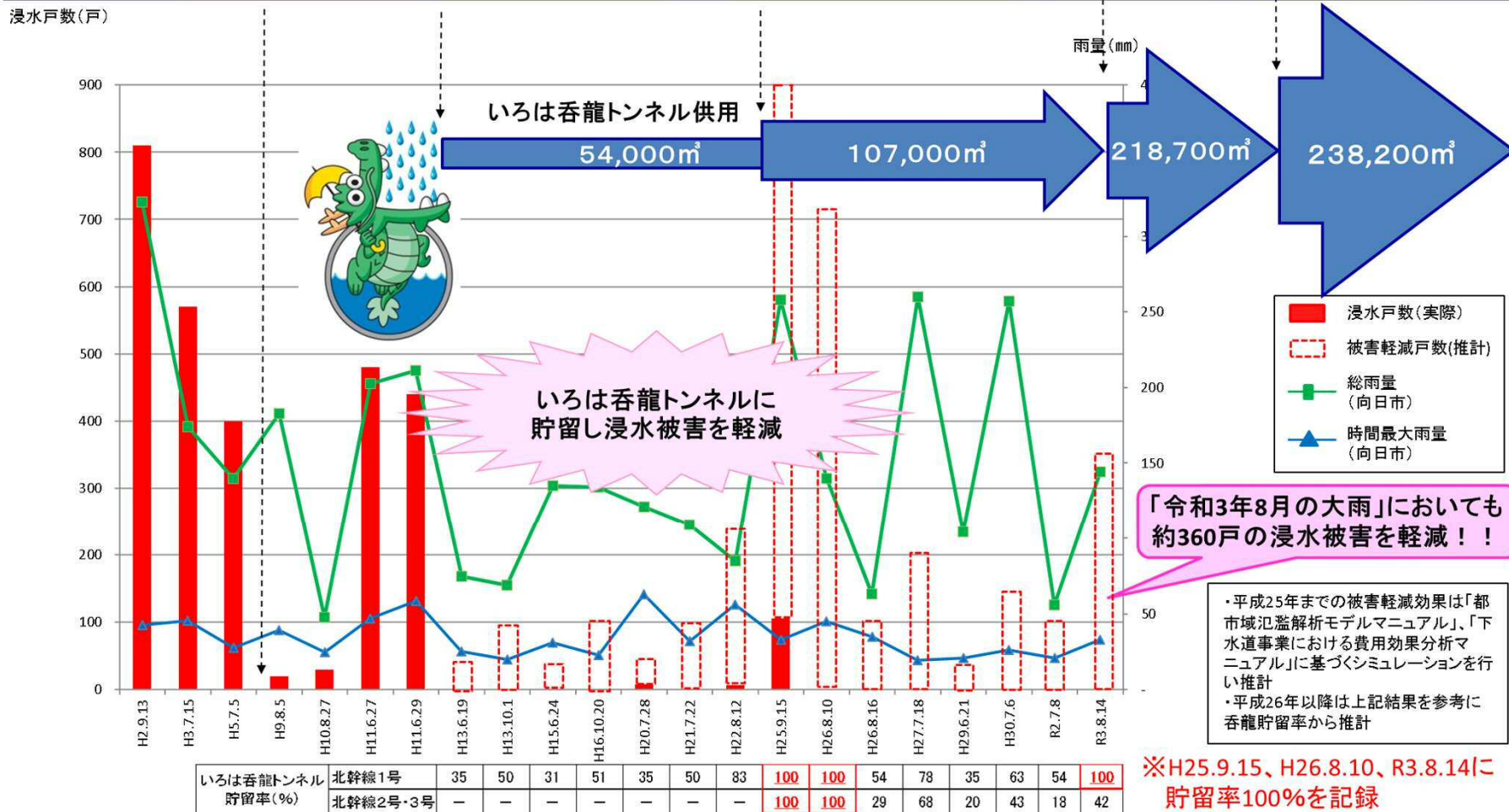
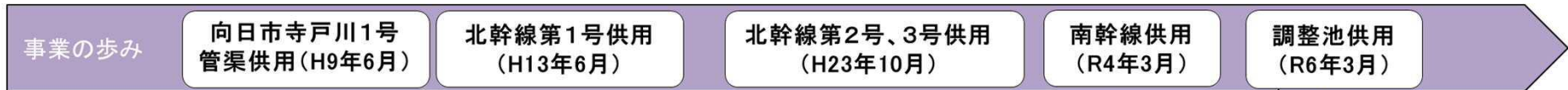
■ : 浸水深 0.5m 以上  
■ : 浸水深 0.5m 未満

# 【いろは呑龍トンネルの整備効果②】

○これまでの延べ浸水被害軽減戸数は約3,000戸

浸水被害軽減額は約420億円と推計

⇒**当該地域の浸水被害を大きく軽減**



※H25.9.15、H26.8.10、R3.8.14に 貯留率100%を記録

・平成25年までの被害軽減効果は「都市域氾濫解析モデルマニュアル」、「下水道事業における費用効果分析マニュアル」に基づくシミュレーションを行い推計  
 ・平成26年以降は上記結果を参考に呑龍貯留率から推計



# 【いろは呑龍トンネルの整備効果③】

○令和3年度末に、南幹線、呑龍ポンプ場、接続施設（和井川、五間堀川-5）が完成

⇒桂川に排水できるようになり、**長時間の雨に対する安全性が大幅に向上**

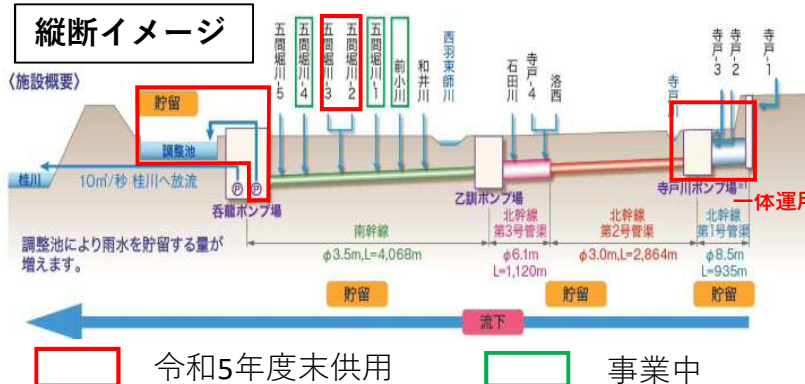
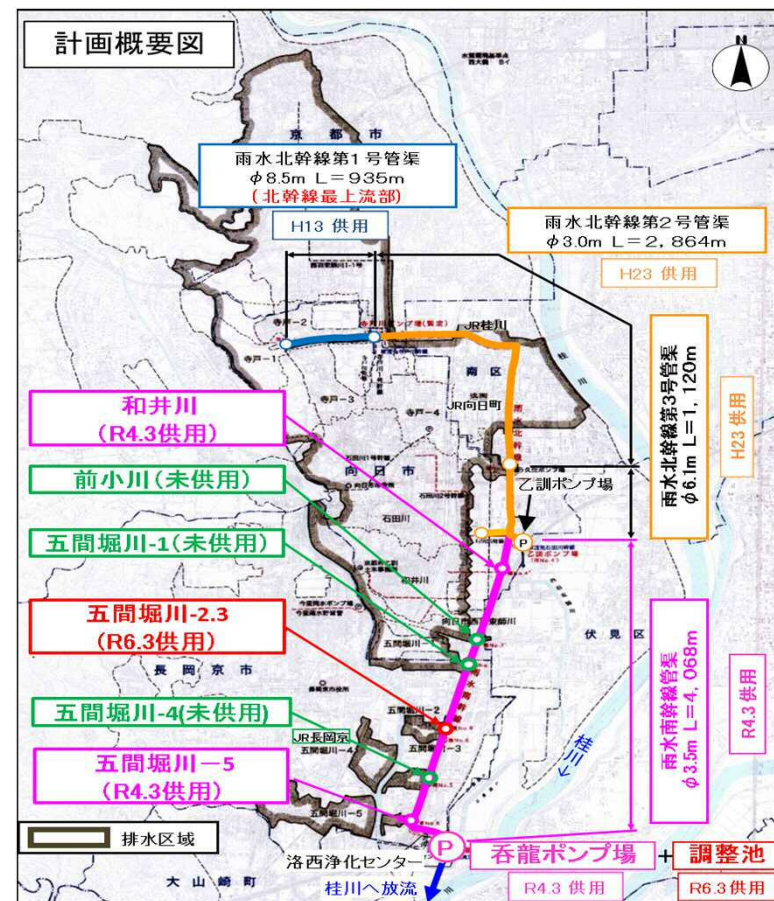
○令和5年度末に、調整池、接続施設（五間堀川-2・3）及び南北の幹線管渠の一体運用※1のための工事が完成

⇒いろは呑龍トンネルの排水区域で、**より多くの雨水を取り込むことが可能**

○残る3箇所の接続施設の完成で、いろは呑龍トンネルの排水区域において、平成25年台風18号の時間最大降雨の1.5倍に相当する大雨※2に対して浸水被害を解消

※1 これまで、貯留機能のみであった雨水北幹線第1号管渠（北幹線上流部）について、雨水を流下させ、最下流の呑龍ポンプから桂川に排水する運用

※2 計画対象降雨(61mm/hr)：10年に1回程度発生する規模の降雨





# 【まちづくりへの影響①】

いろは呑龍トンネル事業着手後の開発状況

3つの新駅  
が開業！

- 阪急洛西口駅 (H15)
- JR桂川駅 (H20)
- 阪急西山天王山駅 (H25)

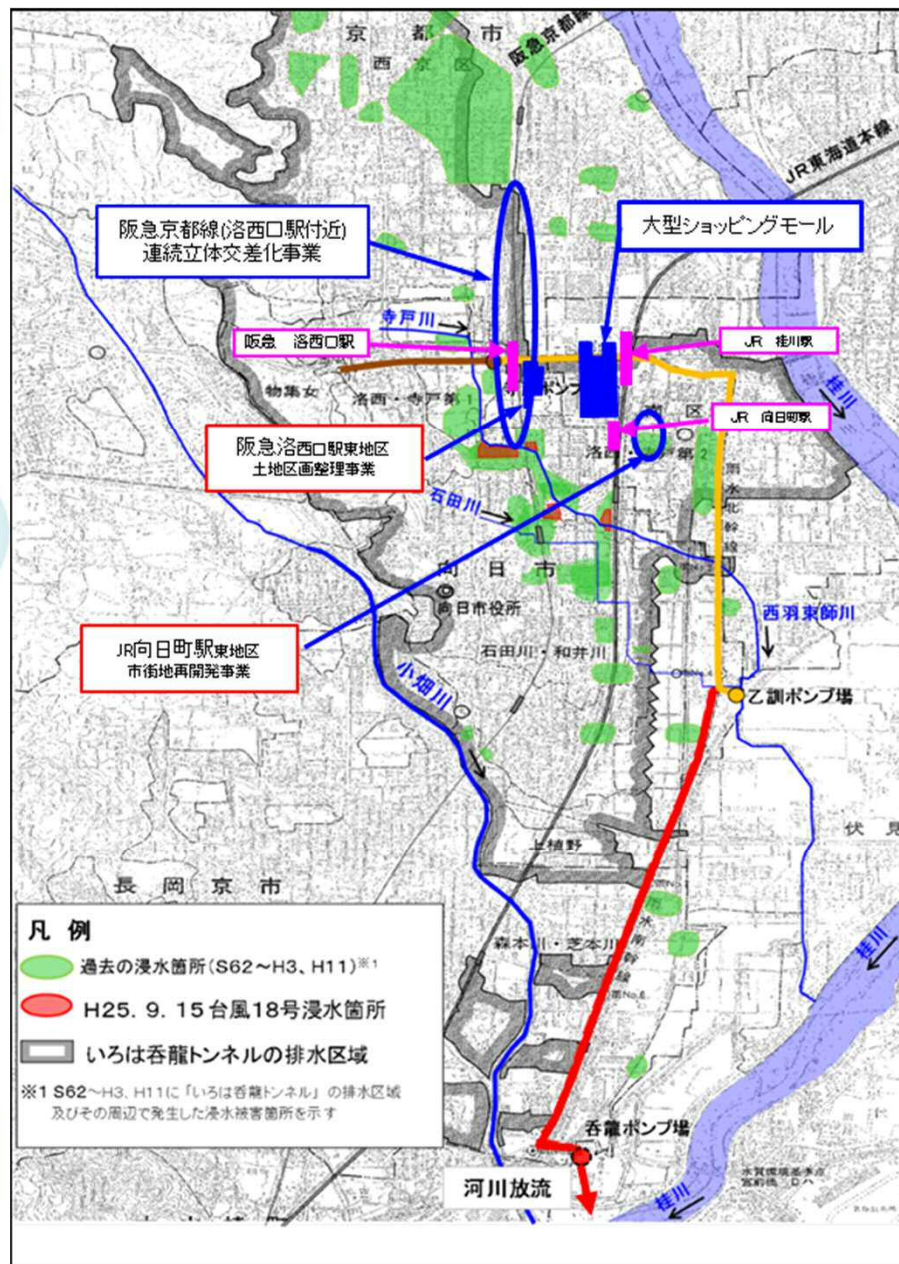
マンション新築  
ラッシュ等により  
人口集積！

商業施設の立地等、  
地域の様々な開発  
が進展！

- 洛西口駅東地区土地区画整理事業 (~H26)
- イオンモール京都桂川 (H26開業)
- 阪急連続立体交差化事業 (~H27)
- 今後も阪急洛西口駅西側では新たな開発が計画中



乙訓地域のまちづくりに大きく貢献！





# 【まちづくりへの影響②】

## 北幹線周辺の状況



阪急洛西口駅西側にホテルを含む複合型施設を誘致することを、向日市の地権者でつくる協議会が20日までに決めた。7月から業者を募集し、10月に選定結果を発表する予定。事業化が検討される区域は約8・4畝と広大で、京都市近郊の駅前では数少ない大型の開発事業となる。

※引用 京都新聞  
平成30年5月21日

# 洛西口駅西側に複合施設 ホテルや商業ゾーン計画

